

Title	ベンチャービジネス育成のための資本市場の創設
Sub Title	
Author	萩原喜武(Hagihara, Yoshitake) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1114号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1114

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

萩原 喜武

主査 太田 康信

副査 古川 公成

山根 節

所属

太田 康信 研究室

ベンチャービジネス育成のための資本市場の創設

戦後、日本の経営システムは世界史上類のない成功をおさめ、それは「日本型経営」として話題を呼んだ。ところが、90年代に入って様相は大きく転換し始めた。実質GNP成長率は94年まで3年連続ゼロ成長が予想され、金融を除く全産業の経常利益も93年度にかけて4期連続ゼロ減益が確実となるなど、戦後最悪の不景気になっている。株価や地価の下落も大きく、金融機関は膨大な不良債権を抱え、深刻な状況となっている。

アメリカでは、新しい産業における新しい企業が次々と誕生し、中にはマイクロソフトなど、次の世代の産業をリードする企業も含まれる。このような、アメリカ産業のダイナミズムを生み出す基盤となっているのが、NASDAQシステムを中心としたアメリカの店頭市場である。

本論では、日本における新規産業を生み出す起爆剤として、規制の緩い新しい資本市場を提言し、21世紀の日本が世界のハイテク産業をリードするためにどのようなシステムが必要か、述べてみたい。